



カトリック元町教会

(瀧本伸幸氏 日吉が丘小学校 昭和62年卒)



発行所  
 夕陽会 函館市支部  
 函館市立あさひ小学校  
 印刷 (株)島本印刷



### 母校への思いを後輩に託して

夕陽会函館市支部 副支部長 三島 俊博  
 (昭和四十七年卒)

昭和四十七年、私は函館を離れ、千葉県で教鞭を執ることになった。北海道を希望したが夢は叶わず、惜別の念を強く抱きながらの赴任であった。当時、東京・神奈川・千葉などへ就職した先輩は多かつたが同窓生と出会う機会はほとんどなく、北海道で仕事のできる仲間をうらやましく思った。

北海道を離れて初めて感じたのは、母校と後輩に対する強い愛着であった。特に、卓球部で同じ釜の飯を食った後輩には会いたい気持ちが募り、毎年帰省しては練習会場に顔を出し、私の先輩がしてくれた万分の一の恩返しを、後輩に実行した。

幸い十年目に再び北海道へ戻ることができ、今は、母校のお膝元函館で勤務できることを大変幸せに思っている。

毎年現役の世話で部活のOB会が開かれているが、現在、会員は百三十五名になった。言うまでもないが、この会員すべてが夕陽会員であり、旧交を深めつつ、現役と共に語り合う和やかなひとときとなっている。今年八月、全国教育大学卓球選手権大会が函館で開催される。OB会として、後輩を助け、大会進行も含め運営全般にわたって支援していくことを会員で申し合わせている。

母校は開校以来多くの教師を世に送り出してきたが、三年目に行われる教育実習に、この二年間少しお手伝いすることができた。今年度、函館市内の中学校

には、各教科合わせて三十六名、養護別科十三名が配属されたが、函館市中学校長会調査部では、毎年、教育実習生を各中学校に配分し、実習の近づいた八月中旬には、その事前の講習も行って来た。二年前に私も講習をやらせて頂いたが、学生のほとんどが、教育実習を意識して、下手な講義に真剣に耳を傾けてくれた。我々の時代はどうであったかと、ふと当時のことが思い出された。

その後、配属された各学校で四週間の教育実習を終えるのだが、現場からは容赦なく批判の声が上がってくる。勿論、批判されても仕方のない実習生もいるのだが、過去の自分自身と絡み合わせて、「育てるといふ立場から一言頂きたい」と思うのは私ばかりだろうか。

この教育実習も、昨年入学した学生が三年目になる平成十九年で終わりになる。今年入学する学生は、教員免許取得を義務づけない新課程の「人間地域科学課程」であるため、今後、教員を希望する学生を対象に、新たに教育実習の計画を組まなければならない。

時代の変遷を経て、母校はその都度、産みの苦しみを味わいながら変革を遂げてきた。夕陽会もまた、間もなくやってくる九十年の歴史と共に、確かな足取りで歩まねばなるまい。会員の親睦を図り、地域の教育・文化に貢献するのみならず、母校で学ぶ後輩へ熱いエールを送りながら・・・。



「心」を育てるために

夕陽会本部 参与 笹原志郎 (昭和三十八年卒)

幼児や児童が被害者となる事件が多発している。誘拐や殺傷など抵抗する力の弱い、いわゆる弱者に対する事件はこれまでも起こってはいたが、最近の発生頻度は異常であり、しかも大変残酷な心痛む事件内容ばかりである。

電話の所持は、小学生9%、中学生44%、高校生93%まで普及しており使用料金の殆どが親負担という実態のようである。このような使用実態について、保護者としても「家庭において指導や話し合いは必要」との切実な思いをもっている。

それに伴い、全国的に児童の登下校時の安全確保に様々な対応・対策を講じており、とりわけ、地域ぐるみでの取り組みは成果をあげているようである。名称も多様で、「スクールガード隊」「学校安全ボランティア」等、校区の町会・PTA・関係機関の方々が中心となって犯罪防止と併せ子どもの生活を見守っている。

平成十年、中央教育審議会は『幼児期からの心の在り方について』を答申しているが、その第一章では「未来に向けてもう一度我々の足元を見直そう」と四つの事項を提唱している。

このような事件を引き起こす背景や要因の一つとして、社会環境の急激な変化が考えられる。かつてのバブル期とその崩壊の中で、価値観は揺らぎ、自信の喪失とモラルの低下の悪循環が起り、加えて物質的な豊かさに伴う拝金主義、家庭の教育力の低下、地域の連帯感の希薄化など高度成長期における「影」の部分があげられる。また、科学技術の進展や高度情報通信社会の実現は、インターネットや携帯電話の急速な普及の中、有害情報に起因する問題行動やトラブルに巻き込まれるという事件が多く起きている。

「生きる力」を身に付け、新しい時代を切り開く積極的な心を育てよう  
・正義感・倫理観や思いやりの心など豊かな人間性をはぐくもう  
・社会全体のモラルの低下を問い直そう  
・今なすべきことを一つ一つ実行していかう、などである。

折しも、一層巧妙さを増した振り込め詐欺、住民の夢と安住を奪った耐震強度偽装、人の心はお金で買えると拝金主義に走ったライブドア事件等々、枚挙に暇がない程である。

今一度、心を育てるために、家庭の在り方を問い直し、地域社会の力を生かし、生きる力を育てる場としての学校の見直し急がれる。

北海道教育委員会の調査によると、携帯

受賞者ご芳名一覽 (敬称略・順不同)

|               |       |      |          |
|---------------|-------|------|----------|
| 春の高齢者叙勲       | 瑞宝双光章 | 木村良  | (昭和12年卒) |
| 秋の高齢者叙勲       | 瑞宝双光章 | 高嶋勉  | (昭和12年卒) |
| 春の叙勲          | 瑞宝双光章 | 山尾正  | (昭和23年卒) |
| 函館市功労者表彰      |       | 北林秀男 | (昭和29年卒) |
| 函館市文化賞表彰      |       | 安東璋二 | (昭和30年卒) |
| 全国学校体育研究功労者表彰 |       | 塩崎設男 | (昭和43年卒) |
| 北海道教育功績者表彰    |       | 山本俊秀 | (昭和43年卒) |
| 北海道教育実践表彰     |       | 鈴木秀明 | (昭和46年卒) |

函館市立学校教職員表彰

|       |          |      |          |
|-------|----------|------|----------|
| 荒木興史  | (昭和42年卒) | 飯田幸三 | (昭和42年卒) |
| 池田義博  | (昭和42年卒) | 石戸大機 | (昭和42年卒) |
| 小山内武弘 | (昭和42年卒) | 笠松光明 | (昭和42年卒) |
| 小林駿三  | (昭和42年卒) | 鈴木勝機 | (昭和42年卒) |
| 千葉雅彦  | (昭和42年卒) | 溝口健一 | (昭和42年卒) |
| 山中文子  | (昭和42年卒) | 吉田訓  | (昭和42年卒) |
| 米谷秀文  | (昭和42年卒) | 佐藤楨雄 | (昭和43年卒) |
| 橋本紀勝  | (昭和43年卒) | 山崎健美 | (昭和43年卒) |
| 田村順子  | (昭和44年卒) | 加茂國興 | (昭和45年卒) |

受賞おめでとうございます

## よるこびの言葉

## 出会いを大切に

山尾 正  
(昭和二十三年卒)

人間は、だれもが、「今よりは、一歩前進しよう」という意欲をもって生まれてくるものである。」

人間は、どんなに秀れた才能をもって生まれてきても、その才能を発揮できる「時」と「場」を与えられなければ、その才能を最大限に発揮することはできない。

昭和二十三年三月三十一日、「北海道檜山郡江差町立江差中学校教諭に補する。八号俸を給する、五百四十円、三級に叙する北海道庁」檜山支庁で辞令交付式を終えて、私の教員生活の第一歩が始まった。

以来、公立小・中学校四十年(教諭二十一年、教頭六年、校長十三年)、函館短期大学十五年、「教育の道一筋五十五年」。山あり、谷あり、波瀾万丈の五十五年。よくぞ、勤めあげることができたものだ。とあらためて感心している。

私を励まし、支え、「活躍の場」「時」を与えてくれた先輩・同僚・後輩にあらためて感謝、お礼の言葉を申し上げたい。昭和二十五年、初めての公開授業研究、映画「始めか終わるか」鑑賞指導に当たって、旭中学校二年、函館市社会科教育懇話会、函館市映画教育研究会共催。

昭和三十五年、第五回、北海道視聴覚研究大会・函館大会、的場中学校会場、

公開授業研究、「蒙古襲来」スライド利用学習、松川中学校二年(バス輸送)。

昭和三十六年、北海道・東北社会科研究大会、新川中学校会場、研究発表「人権擁護の教育と教師の主体性」など。

・「学力とは」「基礎・基本とは」「経験学習か」「系統学習か」「教えるとは」「育てるとは」など、時間を超越

して激論を闘わした仲間たち。

・「研究の仮説とは」「研究計画とは」「資料の収集とは」など、厳しく指導

助言してくれた先輩。

・悩み苦しんでいる時、励まし、勇気づけてくれた同僚。

・何回も何回も書き直された指導案、教職生活三十年で初めて知った教育の難

しさ、厳しさを述べ懐いたS先生。

・「校長先生、担任の先生を替えてください」という父母の声、その要望に答

えてやるのができずに苦悩する校長

「いつ」「どこで」「どのように」「どのような人」との「出会い」があるか、

そのことが、その後の人生を決定づける大きな要因となったことを今さらながら強く実感している。

その時々「人との出会い」を大切にしたいと願っている。お礼の言葉とします。

北林 秀男  
(昭和二十九年卒)

この度、思いがけなく平成十七年函館市功労者表彰受賞の栄に浴しました。

夕陽会、同窓の方々より温かなお祝いの言葉を頂き、誠に有り難く思っております。

私は教職を退いた年度に北海道教育功績者表彰を受けましたが、受賞者全員が教育関係者であり、大きな感謝を覚え、

過去を反省しつつ、有り難く頂戴いたしました。しかし、この度の表彰は市功労

であり、他の三人(民間人)の功績記録を拝見するにつけ、市政に特別の功績の

ない私がこのままお受けしていいのかと、只々逡巡するばかりでありました。

私は、これもまた思いもよらず平成八年から十六年までの八年間を市教育委員

として教育行政に携わりました。この度の受賞に当たっての記録に「…教育行政

の推進に尽力され、本市教育文化の振興発展に貢献…」とありますが、功績などはなくじくじたるものがあります。しか

し、教育行政に携わったことが受賞の拠所の一つになったようであります。

又、前記の記録に「児童生徒の心を育む生徒指導の研究・研修や教育現場で問題に直面する教職員の支援を行う学校教育相談研究会の設立に積極的に携わり、…

学校教育相談における研究・指導に尽力…」

先輩・同僚・後輩に感謝  
函館市功労者表彰を受賞して

とあり、この事も受賞の拠所となったようでもあります。しかし、この事は当時の先輩・同僚・後輩等多くの方々と共に活動したのであり、これらの皆さんに申し訳ない気がしてなりません。

これまでの長い間、多くの方々からご支援を頂き、平成四年三月に千代田小学校を退職の後、市福祉部相談員、教育学大函館校講師(生徒指導)、市教育委員を勤めてきましたが、市教育研究所勤務以来、カウンセリングの考えと態度を大切にしようと思ってきました。しかし、今ではすっかり錆ついてしまいました。しかし、先輩から貴重なご指導を頂いた事が思い出されます。これからのカウンセリングの考えや態度を大切にしていきたいと考えております。

今、社会が激しく変化する中であって、教育の世界も未だに改革の途上でありますが、教育に携わる皆さんは、教育の本質を見極め、愛情と信念に基づく揺るぎない教育を確立して欲しいものです。

終わりに、これまで支えてくださった方々に心より感謝を申し上げますと共に、今後の余白の人生をこれらの方々から報いる生き方をしなければならぬと考えております。有り難うございました。



## 受賞の後で

安東 璋 二  
(昭和三十年卒)

特別なことをしてきたという思いもないので、このたびの受賞には恐縮しています。

長年大学を中心に研究や教育、運営に従事してきた身としては、むしろその外側で、自らのしみ、心の糧としてきた函館文学学校や、地域の文学活動への関与などをとりあげられるかたちになったのも恐縮とするところです。

しかし、函館に生まれ育ち、このマチに愛着の深いものとして、その名の由緒ある賞をいただけたことは、率直にありますが、たく思っています。あらためてご支援や祝意を寄せていただいた国語教室はじめ夕陽同窓や、本部支部の関係各位にお礼を申しあげます。

受賞はありがたいことですが、これは同時に日ごろ安逸なわが身への、うながしでもあるようです。

研究面では漱石に関する著作などを評価して貰いましたが、それも含め持ち越しの課題ばかり多くわれながら嘆息しています。気をとり直して少しでも仕事の道筋をつけたいところです。函館文学学校などの活動も、講師や受講生と一体のその一端の役割を担ってきただけのこと

です。ただそれだけ函館文学学校の存在や成果が認知されてきたしるしと考えれば、思いを新たにつとめねばなりません。他の方面でも、自分なりになお寄与すべきものがあれば幸いです。

たまたま受賞と相接するように、函館市中央図書館が開館したことに感慨をおぼえます。五年前函館市中央図書館建設懇話会が発足して以来、会長として会員の人ともども基本構想の段階から、設計施工に至るまで、完成を何よりの楽しみとしてお手伝いしてきました。同じ十一月、待望の図書館にふさわしいかたちで、好評のうちに開館の日を迎えられたことは、個人的な受賞の思いとは別に、忘れがたい思い出になるようです。

一方、私事をおいて気になるのは函館校の再編と、夕陽会の今後の動向です。歴史と伝統のある夕陽会が、新課程中心となる母校の再編でかつてない局面に際会している事情は、会報前号の尾島副会長長の文にもよく尽くされています。冷徹に現状と先行きを見ずえて、大学や地域との密接な連携のなか、多端な課題がよりよいかたちで克服されていくことを、心から祈念しています。



## 「体育と多くの出会い」に恵まれて

塩崎 設 男  
(昭和四十三年卒)

この度は、皆様方のご指導とご支援のもと、全国学校体育研究功労者表彰並びに北海道教育功績者表彰受賞の榮に浴することができました。もとより浅学非才の私にとりましては身に余る光栄であります。ここまでお導きいただきました皆様に深く感謝申し上げます。

受賞にあたりまして、伊藤支部長様はじめ多くの皆様より早速、心温まる祝詞、祝電等を頂戴し恐縮至極に存じております。誠に有り難うございました。

十一月十日、全国学校体育研究大会の一日目終了後、富山県民会館で全国の体育仲間に見守られ、身の引き締まる思いで全国学校体育研究功労者表彰の受賞、十二月十三日、島津教育委員長様、相馬教育長様はじめ、道教委の幹部の方々、ご来賓の皆様の見守るなか北海道教育功績者表彰の受賞と身に余る榮に浴し、あまりに過ぎた賞の重さを改めて実感いたしております。

この受賞は「渡島・函館の体育研究」と「渡島・函館の教育」に与えられたものと考えます。さらに、函館市小学校体育研究会、函館市小学校長会の活動にいたいただいたものとも感じております。

これまでの基盤と足跡を残してくださっ

た諸先輩の皆様には深い感謝の気持ちでいっぱいです。この三十七年余り、私は、教師としての道を導いてくださったすばらしい恩師との出会いに恵まれました。

教育のあるべき方向についてご指導・ご示唆くださった多くの先輩との出会いに恵まれました。

共に取り組み、やり抜こうと支えてくれた仲間、同僚との出会いに恵まれました。

私を育ててくれた多くの子供たちとの出会いに恵まれました。

教育活動に温かい協力・支援をしてくださった地域・保護者との出会いに恵まれました。

いずれも私の教職生活を支えてくれた素晴らしい「出会い」であったと感謝の気持ちと感慨深い気持ちでいっぱいです。今日あるのは、「体育」と「恵まれた出会い」があったればこそです。自分は果報者であります。皆様方の支えがあったのお陰と肝に銘じております。

結びにあたり、これまで以上のご厚誼をお願ひ申し上げますとともに夕陽会へますますのご発展をご祈念申し上げます。といたします。



## 人との出会いに恵まれて

山本 俊 秀

(昭和四十三年卒)

このたびは、平成十七年度北海道教育功績者表彰の栄に浴し、身の引き締まる思いでいっぱいです。また、夕陽会はじめ皆様から多くのご祝詞をいただき誠にありがとうございました。

十二月十三日表彰式に出席しましたが、今年の初冬の札幌は積雪もなく、空は晴れ渡り、凜とした風に心も洗われる清々しい気持ちでした。式には家内と共に出席したのですが、式場の広い空間が醸し出す厳かさを感じつつ、表彰状の伝達を受けました。受賞式での説明を聞きながら、三十八年間の過ぎ去った出来事が一挙に思い浮かんできました。ポストンバッグ二つを下げ、まだ雪が残っている弟子屈駅に降り立ち、赴任先の小学校に向かいました。それから三十八年が経ったのですが、節目節目の様々な方々との出会いを懐かしく思い出していました。

今振り返ってみると、教科での出会いもありました。函館市に入り、学級経営と野球指導に打ち込んでいた日々でしたが、雨で練習のない日に、中学校国語教育研究会に誘われ、例会に出席しました。国語教育への情熱やエネルギーがいつぱいの会でありました。以来大先輩の方々に囲まれながら、ずいぶんと教えていただきました。刺激も受けました。三回

の全道国語教育研究大会函館大会の実施に関わる中から、多くのことを学ぶことができました。こう思い出しながら、自分はずいぶんと諸先輩方に恵まれたものだと思っています。もしあの雨の日の出会いがなかったなら、と考えると、人との出会いというのは不思議で、因縁深いものだと感じています。

さて、授賞式を終了し、函館行きの特急を待つわずかな時間に、教師七年目の時ご指導いただいた校長先生、現在八十四歳になりますが、ご夫婦で駅まで会いに来てくださいました。三十数年間の思い出が、走馬燈のように駆けめぐるとともに、二十代の若造でご迷惑をおかけしたであろう日々を恐縮しながらお話をうかがっていました。懐かしくもあり、また、何と有難いことであろう、幸せ者であろうという気持ちでいっぱいになりました。様々な方々との出会いが作ってくれた今回の受賞ですが、今までの取り組みの集大成としてのご褒美であると思っています。

これまでの皆様方のお力添えにより大きな喜びを得ることができましたことに感謝したいと思います。ありがとうございました。



## 学校図書館の思い出

山 中 文 子

(昭和四十二年卒)

このたびは思いもかけず、学校図書館の関わりで、函館市立学校教職員表彰を受賞させていただきました。在職中お世話になりました皆さんの皆様のご指導お力添えに、心から感謝いたしております。

振り返りますと、教職三十八年の中で長い間学校図書館の仕事を担当させていただきました。

かわいい子どもたちと出会い、多くの本と出会えて、教員生活を送ることができましたことを、幸せに思っております。なかでも、先輩の先生方が築いてこられました学校図書館研究会の一員として、研鑽の機会をいただきましたことは、大きな支えとなりました。研究会が開催する基礎講座では、図書館に関する実務や運営、読書指導や利用指導など、図書館教育全般にわたって実践交流をし、新たな意欲をもつことができました。

子どもたちが本と友だちになり、心豊かに成長してほしい。図書室からさまざまな情報を提供したい。子どもにとってゆつたりできるいやしの空間を作りたい。

長い歩みを、静かに見つめてきた膨大な蔵書を、全教職員で整理しました。新生あさひ小学校への本の移動は、百名あまりの全校児童が、ビニール袋に数冊ずつ入れ、低学年から高学年へと何往復もリレーをし運びました。あさひ小学校の新しい図書室が開館する日、行列になった子どもたちの嬉しそうな笑顔が忘れられません。

今は、各学校に立派な図書室があります。十二学級以上の学校には、学校図書館司書教諭が配置され、図書館の役割がさらに重要になっていくことと思います。

図書館研究会後援会の先生方による読み聞かせや実務の応援、PTAや地域の方の読み聞かせボランティアの輪も、広がりを見せています。子どもたちが、本の世界を楽しむ機会が増えてきました。

また、待ち望んでいました中央図書館がオープンしたことで、より多くの本や資料、情報が入手しやすくなり、子どもたちの学習活動が一層充実していくことと思います。



### ありがたいこと

前・函館市教育委員会教育長 金山正智 (昭和三十五年卒)

先日、函館市中央図書館のオーブン・グセレモノ一に参列した。何度も足を運んだ場所であるが、二十五万冊を超える蔵書に埋まり、新たに配置された職員の間、あわただしい動きの中で、図書館は別人のような生き生きとした顔をしていた。関わってきた年月の重みと、ようやく教育長の仕事が終わったことを実感していた。

平成五年、就任当時の函館市は、市の財政も比較的潤沢で、平成元年から始まった義務教育施設の整備が、毎年二〜三校という驚くほどのペースで進められていた。この大改築事業は、校舎、体育館の改築・新築は延べ三十六校、事業総額二百四十九億円の巨額をもって終了する。

また、社会教育施設についても、野球場、陸上競技場など老朽化した施設の改修のほか、ネット式海水浴場や芸術ホールなど新規の建設も含め、毎年、一つは施設が建設されていた。

教育委員会としては忙しい時期であったが、同時に、意見、要望の聴取や調整、準備、引越などのお力添えをいただいた夕陽会会員の皆様はじめ多くの方々のご厚情は忘れられない。

任期の後半、地域経済が陰りを見せ始め、加えて、社会のさまざまな場面で、改革の動きが加速する状況の中で、教育もまた、ソフトを中心とした施策へ、その充実のための発想の転換が求められるようになってきた。学校週五日制、アウ

トソーシングの導入、学力テストの実施、新しい高校の構想、義務教育施設の整備の見直し、生涯学習の進展、スポーツ・芸術などの振興のための計画づくり、文化財の整備などなど、いずれも厳しい財政の中で、最大の効果が求められる仕事である。

私がありがたく思うのは、こうした時代の転換期に、我が身を置くことができたことである。現場を預かる多くの方々と、話を交わしながら、共に考えを巡らすことができたことである。心楽しい時間であった。

この間、学校関係の皆さんが、正しい時代認識のもと、気概をもって、新しい仕事を一つ一つ切り開いていただいたことを、感謝の念で思い起こしている。うれしいことであった。

改革はメニューが出そろった段階で、これからは本格的な取り組みになるのであると思う。ご苦労は多いことと思いが、たゆまぬご精進を願っている。私も、函館の教育の応援団として、皆さんに精一杯の支援を送ろうと考えている。これまでいただいたお力添えに重ねて感謝し、皆さんのご活躍と健康を祈念する。

## 函館市教育長 バトンタッチ

昨年十月、金山正智前教育長の後を受け、函館市教育委員会教育長に就任いたしました。夕陽会の皆様には、今後とも変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

我が国の経済、社会の急激な変化と国家の未来をかけた教育改革の怒濤の中にあつて、金山前教育長は、学校週五日制の下で展開する様々な教育活動の充実、学校の統廃合や新設、中央図書館をはじめとする生涯学習施設の開設など、多くの教育課題の解決に創造性に富んだ実行力をもって取り組まれ、その豊かなお人柄とともに卓越した手腕を発揮されました。教育長の職を引き継ぐに当たり、その業績の大きさに改めて畏敬の念を深くするばかりです。

今、自らに課せられた責務を考えると、中核市として新たな飛躍をめざす函館の将来を担う人づくりに果たす教育の使命の大きさと継承されてきた伝統の重さに思いが至ります。神山茂先生の「函館教育史」の序に、「函館は北海道文化発祥の地である。そして文化の中軸をなすものは教育を最も重しとする。」とあります。

昔から函館は民の街だといわれてきました。教育においても藩校や官立学校で



### 心相通じ

### 夢を託す

はなく、民間の教育がその源流となっています。幕末期には、すでに寺子屋や私塾で市中の多くの子どもたちが学んでいました。明治の学制施行後も、住民が資金を集めて設立した公立学校や私立学校が函館の教育を担ってきたという他の都市に類を見ない歴史をもっています。こうした函館の人々の教育に対する期待や学校に対する信頼は、子どもたちに明るい可能性を見出し、この街の未来を託そうとする熱い思いの流露であり、それが、地下を流れる水脈となつて今日の函館の教育へと引き継がれてきました。そして、彼方へと続いていく遠大な教育の流れに浮かび上がる道標、それは、「地域とともに歩む学校づくり」であり、さらに「豊かな対話に支えられた教育の創造」であります。

地域とともに歩む学校の実相は、教職員と地域社会の人々が、次代を担う子どもへの教育に対する責任を共有する成熟した関係に支えられるものであり、子どもの未来を語り合う真摯な対話の中から心が通じ合い、夢を託す希望が生まれてくるものであろうと思えます。

教育の実践は、一日一歩を積み上げていく地道な営みですが、私たちの進むべき道はその中にこそあります。心を定め、懸命に歩みたいと自らを叱咤する毎日があります。

函館市教育委員会教育長

多賀谷

智

(昭和四十五年卒)

# 新たな飛躍を

## 子どもたちが主役



函館市立八幡小学校

小野木 真希子

(平成十四年卒)

八幡小学校に勤務し始めて、二年半が経ちました。私は、今年度から正式採用となりましたが、本校には期限付教諭に引き続きという、大変恵まれた環境の中で勤務させていただいております。

民間企業に勤めていた私ですが、学校教育を外から見たとき、改めて子どもたちとかわかる仕事のすばらしさを痛感し、教員になることを決意しました。教員になってから、日々の生活があつという間に過ぎていき、それだけ充実した日々を送ることができているのだと思います。

私が子どもたちとかわかる中で、大切にしていることは、「子どもたちの成長過程、発達段階でのサポート役に徹する。」ということなのです。

学校とは、授業を通して学力を身につけるだけではなく、社会性を身につける場でもあると考えます。子どもたちは、日々の生活を送る中で、楽しいこともつらいことも経験します。まががった道に進みそうになつた子どもたちがいたらそれを補正してあげる、そのような存在でありたいと考えます。

しかし、その後自分自身をより良く成長させるのは、子どもたち自身です。周囲からのサポートにより、自分をより良い人間にしていこうという意識を持たせることができる、そのような教師を目指しています。

私は、まだまだサポーターとして力不足を感じています。今は、子どもたちとできるだけ多くかわかることで、その子どもが何を考え、どうしていききたいのか、それを理解するところから始めているところです。

## 謙虚な気持ちで



函館市立柏野小学校

相馬 匠

(平成十五年卒)

私は平成十七年四月から、小学校の特殊学級で教員生活をスタートさせていた、だくことになりました。十四名の子どもたちと一緒に、毎日元氣一杯に過ごしております。それと同時に、障害の状況が一人一人異なる子どもたちとどのようにかわり、指導していくのかを常に悩みながら過ごす日々でもあります。

昨年度までの二年間、私は期限付教諭として特殊学級で勤務しておりました。その経験は、現在の実践に大いに役立っています。その反面、知らず知らずのうちいろいろな事を「わかつているつもり」になってしまうことも多くあります。自閉症の子どものかわり方、学校、学級全体の仕事などなど、これまでの私の経験はわずかで不確かなものであるにもかかわらず、わかっているつもりになって失敗することがしばしばありました。そのような自分に気づかせてくれたのは、先輩の先生方であり、子どもたちでした。先輩の先生方の温かいご指導、ご助言、そして何より間近で見る日々の素晴らしい実践が私の心を引き締めました。また、毎日様々な難しさを感じながらも、一生懸命に学校生活を送っている子どもたちの姿が、「もつと頑張らなくては」という気持ちにさせてくれました。

新採用となり、一年がたとうとする今、謙虚な姿勢で学び続けること、子どもたち一人一人の視点に立つて指導することの大切さを改めて心に刻み、これからの教員生活を歩んでいきたいと思っております。

## 決意を新たに



函館市立北日吉小学校

横田 雅美

(平成元年卒)

平成十七年四月より小学校教諭として勤務しています。現在受け持っている一年生の子どもたちに、「もうすぐ二年生だね。」  
と言う度に、自分にとっても早くも一年が経とうとしていることを実感します。そして、これまでの自分の指導で子どもたちがどのように成長したのだろうかと思ふためて考えさせられる毎日です。

大学卒業後、十年以上経ってから教職を目指す決心をした私にとって、採用に至るまでの道は大変厳しいものでした。それでもあきらめることなく挑戦し続けることができたのは、私を支えてくれたたくさんの方々のおかげであることを身をもって感じ、感謝の念で一杯でした。また、現在の勤務校の同僚や初任者研修で知り合った仲間との出会いも、自分にとっての新たな原動力になったことは言うまでもありません。これらの経験から、私は子どもたちにも人との関わり大切さを伝えていきたいと思うようになり、この一年、試行錯誤しながら取り組んできました。

これからも、子どもたちがいるいろいろな先生方やたくさんの方との出会いを通して、心身ともに健やかに成長していくことができるよう、精一杯力を尽くしていきたいと考えています。そして、常に子どもたちの心に耳を傾け、同じ視点に立つて見つめながら、子どもたちが求めているものを敏感に感じ取ることができ、教師でありたいという今の気持ちを忘れず、一步一步堅実に歩んでいきたいと思っております。

# 大変な時こそ「大」きく 「変」われるチャンス



函館市立赤川小学校  
松井貴洋  
(平成十七年卒)

四月から教壇に立つて一年が過ぎようとしています。教員人生の初めての担任は特学の担任でした。学生時代英語科だった私にとっては何もかもが初めての経験で、毎日が悪戦苦闘で失敗の連続でした。それに加え、初任者研修や校務分掌等の仕事に追われ、教師という職業の大変さを実感しました。

教材研究し、準備を整え、今日は大丈夫と思った授業でも、児童の思いもよらぬ反応で失敗したこともありましたし、逆に児童のフォローに助けられたことも何度もありました。その度に私は、その子たちのためにもっともっと勉強し、わかりやすい授業をしようという気持ちにさせられます。また、運動会や学芸会等の行事を児童とともに創り上げ、それを成し遂げた時の感動は何ものにも変えられません。忙しく大変であった反面、毎日が充実し、大変だったからこそ私自身が大きく変わったのだと思います。

今の私はまだ教師として半人前ですが、児童の中に飛び込み、児童の立場に立つて物事を考え、児童の良き理解者になることを心掛けたいです。教師という仕事にはこれで良いというマニュアルはなく、常に自己を研鑽していかなければなりません。諸先生方のアドバイスを謙虚に受け止め、また、研修を通じて専門性を高めていけるよう精進したいと思います。

ひたむきな努力と若さのバイタリティーでがんばりますので、今後とも諸先輩方のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。

# 武士から学ぶ本意



函館市立駒場小学校  
萩森敦史  
(平成十三年卒)

高校生の頃、修学旅行で初めて訪れた北海道。そのときからこの地で教員になることを決意した。それから十年。月日は流れたが、そこで出会ったすべてのものが現在の私を支えている。

私の毎日は、わんぱくな一年生と、懸命にバスケットボールを追いかける子どもたちとともに送られる。何物にも代え難い幸福である。

十年前に後にした故郷。三重県の小さな町を懐かしみ、かつての戦国大名藤堂高虎を想う。

「武士たるもの常に覚悟の事。寢屋を出るよりその日を死番と心得るべし。かように覚悟極まるゆえに物に動ずる事なし。これ本意となすべし。」

高虎は、家康を中心に十もの主君に仕えた武士だが、そこに垣間見る彼の生き様は私の心を昂ぶらせて止まない。

教師も覚悟をもち、身体と精神を鍛えなければならない。刻々と移りゆく社会構造の変化に対応する凛として、そして柔軟な能力が要求されるからだ。

昨年十月に発表された中央教育審議会答申で、『あべき教師像』について明示された。①常に学び続ける向上力②教育のプロとしての確かな力量③様々な人格的資質。教師の質の向上が重点課題にされている。

高虎から学ぶ教師の本意。時代が求める教育的ニーズに対応できる資質と能力を身に付け、広く社会から尊敬される教師になりたい。そして、時代を的確に見据えた揺るぎなき心の持ち主でありたい。

# この一年を終えて



函館市立亀田中学校  
山田好一  
(平成十四年卒)

初めての担任Ⅱ中学三年生。新採用として始まった今年度は、とてもプレッシャーのかかるスタートでした。初めて会う生徒。初めての受験。学級経営のイロハを諸先生方から教えて頂きながらという状況で、悪戦苦闘の毎日でした。

そんな私を一番支えてくれたのは、学級の生徒たちでした。面識もない者が担任となり、不安も大きかったであろうに、私を温かく迎え入れてくれました。時には共に力を合わせて戦い、時には厳しく衝突したり、決して平坦な道ではなかったけれど毎日がとても貴重な経験でした。私自身、子どもから本当に多くのことを学ばせてもらい、子どもと一緒に成長することができました。子どもの持つ視点・思い・願いに正直にぶつかり本音で話し合うことが私にできる唯一のこと、それだけは忘れぬように心がけた一年がもうすぐ終わろうとしています。

これからも学級経営・教科指導・生徒理解などまだまだ学ぶ事が多い私ですが、これまでの経験を生かして今後も研修に励んでいく覚悟です。



# 学校・職場紹介

## 函館市立桔梗小学校



函館市の北側にあり、函館市と道央を結ぶ国道五号線沿いに位置している本校は、自然と産業が上手く調和した環境にあり、深い歴史と伝統を誇る学校です。

開拓の始まる安政六年頃、本校の位置するあたりは、桔梗野と呼ばれ、牧草地が広がり、一面に桔梗の花が咲き乱れていたそうです。そうした環境を愛した地域の人々の気持ちと開拓の精神の象徴として本校の校章は、桔梗の花をモチーフ

にしたデザインとなっています。

開校は、明治政府が学制を公布した十年後の明治十五年十一月です。下斗米音八氏の家に十二名の子弟が集まり、学校が始まったとされます。

明治三十年、現在地に校舎の移転が行われ、今日ある桔梗小学校の基礎ができました。また、昭和四十八年十二月には、当時の亀田市と函館市の合併により、桔梗小学校は函館市の仲間入りをする事となりました。その後、平成二年度に、新校舎が完成、平成五年度に体育館完成、平成六年度に屋外プール完成などを経て、現在の校舎に姿を変えていくこととなりました。

開校百二十周年記念を迎えたのは、平成十三年十一月でした。児童、職員、地域が共に協力し合い、盛大に記念式典が行われました。

そんな桔梗小学校の歴史を、じっと見守ってきたのが「三本木」と呼ばれる樹齢百三十年と推定される「サワグルミ」の古木であります。一つの根から三本の大きな幹が分かれて出ているこの木は、大変珍しく、地域や子ども達の間にとっても親しみのあるものとなっております。本校の校歌の歌詞にも出てきます。校庭の隅に、高さ十八メートル、直径一・五メートルで、悠々とそびえ立つその姿は、学校のシンボルのな存在となっております。だけでなく、地域の宝物とされています。

これほどの巨木ですが、昔(明治三十五年頃と推定)、蒜川にあったものを松本文次郎が苦心の末に学校に植えたものと言われています。本校に学んだ先人達は、代々この三本の幹が、「知・徳・体」を表すものとして慣れ親しみ大切に生きて

ました。この木は地域と学校を繋ぐ心の糧となり、歴史と伝統の証ともなっています。

本校は、「心豊かな桔梗の子」を学校教育目標とし、具体的な目標として、「心をひろくもつ子」(徳)、「頭をつかう子」(知)、「体をきたえる子」(体)と、三本木のように三つを掲げ、「自ら学ぶ子」をめざし、さまざまな教育活動を展開しています。

現在、十三学級、児童四百三十八名の在籍があり、子ども達は、開拓の歴史と素晴らしい伝統を心に受けとめながら、生き生きと学校生活を楽しみ勉学に励んでいます。

児童会活動では、ボランティア活動やあいさつ運動をはじめ、明るく、気持ちよい学校の雰囲気作りに努め、各学校行事においても、児童会が中心となった活発な活動がみられます。学芸会では、校区にある特別養護老人ホーム「幸成園」の方々を招くなど、地域との交流にも積極的に取り組んでいます。

放課後の学校の様子ですが、夏場は、サッカー少年団や野球少年団が、元気に声を出しながらグラウンドで練習に励み、体育館では、一年を通してバレー少年団や地域の活動などで、爽やかに汗を流す姿が見られます。まさに、地域に開かれた学校として、本校はフル活用され、生き生きと活動する人々の息づかいが絶えないといっても過言ではありません。

PTA活動も活発であり、保護者の方々が自発的かつ意欲的に、さまざまな取り組みを行っています。その中に、「三本木祭り」という催し物があり、例年秋に開催されています。桔梗中学校ブラスバ

ンドによるミニコンサートをはじめ、バザーやゲームコーナーなどが設置され、校内は、楽しくお祭りに参加する多くの子ども達や地域の方々にぎわいを見せます。

学校職員は、校長、教頭、教諭、養護教諭、事務職員、用務員、栄養職員、調理員と総勢二十八人で構成されています。豊かな経験とキャリアを持つ粒ぞろいであることは、もちろん、多種多芸(特技)に富み、個性あるメンバーであふれています。ここでは紙面の関係で、詳しく全員の紹介をできないのが残念です。

その中で、夕陽会のメンバーは次の通り十六名となっています。大学に在籍していた時間は多少違うものの、ともに同じキャンパスで青春時代を過ごした仲間として、夕陽会の絆をいつまでも大切にしたいと思うと同時に、これからもますます会が発展していくことを心から願っています。

- 〈校長〉 松谷 秀彦 (昭和43年卒)
- 〈教頭〉 伊藤 克美 (昭和54年卒)
- 〈教諭〉 谷口由美子 (昭和45年卒)
- 石川 政子 (昭和46年卒)
- 福原 宏也 (昭和49年卒)
- 出町 恵子 (昭和49年卒)
- 鈴木千維子 (昭和53年卒)
- 高橋 一裕 (昭和55年卒)
- 福井 直美 (昭和58年卒)
- 山内 祐子 (昭和58年卒)
- 水野 周一 (昭和58年卒)
- 近藤 宏 (昭和63年卒)
- 大山 由佳 (平成元年卒)
- 時田 伊将 (平成4年卒)
- 工藤いづみ (平成7年卒)
- 村上 兼人 (平成9年卒)



函館市立尾札部中学校

平成十六年十二月に函館市と合併した昆布の里、南茅部地区から尾札部中学校の愉快な会員八人の自己紹介です。

青木 昌史(昭和53年卒)

今年度、五稜中学校から尾札部中学校に赴任致しました。

南茅部地区は初めてですが、海あり、川あり、山ありと自然に恵まれた素晴らしい地です。生徒は、コンブパワーの元気で素直な良い子達です。先生方も熱心でとてもやりがいのある学校です。

本校の教育活動の充実、発展のため地域と共に頑張る所存です。

東海林 清(昭和53年卒)

白尻小学校、尾札部中学校、そしてまた尾札部中学校と、南茅部での生活十五年目を迎えようとしている。春は山菜取り、夏は養殖昆布の手伝い、冬は歩くスキーを、季節を問わずマラソン大会参加と海釣りを趣味に楽しんでいきます。とりあえず健康だけが取り柄である。

山崎 進(昭和58年卒)

尾中に赴任して四年経ちました。でもなぜか本校在任九年目。めずらしく尾中勤務が二度目です。

十一年前、通勤していた頃、川波から中学校までバイパス工事をしていて、早くこの道路を通りたいと思っていた事が現在、実現して、良い景色を見ながら通っています。

吉田 豊(昭和60年卒)

本校の勤務年数も五年となり異動が気になる今日この頃。振り返れば多くの人に支えられた日々だった。授業や行事に手ごたえを感じながら、起業家教育の実践に取り組むこともできた。生徒にも仲間にも恵まれたことに感謝したい。

小川 陽(平成4年卒)

早いもので、松前中学校から、この尾札部中学校にお世話になり、十年が過ぎようとしております。

この間、書ききれないほどの思い出があり、その思い出の数だけ経験も積ませていただきました。同僚職員、保護者、地域の方々から支えられ何とかふんばってこれました。心から感謝するばかりです。この感謝の心を失わず、これからも謙虚に頑張り続けます。

加藤こずえ(平成10年卒)

早いもので本校に勤務し、もう四年が経ちました。私の愛する故郷ですから、独特のなまりも磯の香りも実に私の肌に合っており、尾中は居心地が良いです。最近めっきり増えたしわに悩んでおりますが気持ちはまだ二十代のまま。今後とも笑顔絶やさず前向きに頑張りたいと思います。

増川 貴博(平成10年卒)

平成十五年に赴任。自分と一緒に入学してきた子供達と共に楽しい三年間。卓球部顧問で昨年度、中体連・新人戦と全道大会二連覇。(子供の力で) 来年度は少子化に伴い、女子五人・男子二人と卓球部も少子化。部員集めに悪戦苦闘の日です。

横山 豪(平成14年卒)

今年度、新採用で尾札部中学校に赴任し、早一年が経とうとしています。着任式では「皆さんを理科好きにします。」と言ったのですが、周りでは「三日月にします。」と聞こえたと聞かされたらしく、全校生徒がポカーンとしていた光景が、今でも脳裏に焼きついて離れません。これからも全力で頑張ります。



受賞祝賀会・会員懇親会



訃報

- 阿部 幸治氏 昭45年卒 平17年3月ご逝去
竹内 幸雄氏 昭24年卒 4月ご逝去
島田 良則氏 昭25年卒 4月ご逝去
山岸 秀一氏 昭44年卒 4月ご逝去
伊在井寿郎氏 昭33年卒 4月ご逝去
木立 勇氏 昭4年卒 5月ご逝去
橘 喜久雄氏 昭9年卒 5月ご逝去
木元 一次氏 昭20年卒 6月ご逝去
五十嵐泰雄氏 昭13年卒 7月ご逝去
菊地 淳氏 昭31年卒 9月ご逝去
山中 浩氏 昭28年卒 12月ご逝去
九嶋 恭子氏 昭45年卒 12月ご逝去
早坂 齊氏 昭23年卒 平18年1月ご逝去
花田 次郎氏 昭16年卒 1月ご逝去
大石 範雄氏 昭34年卒 1月ご逝去

平成17年度 前納会員 (順不同)

- 大島 安長氏 (昭和30年卒)
高橋 豊氏 (昭和41年卒)
荒木 興史氏 (昭和42年卒)
白 俊明氏 (昭和42年卒)
小山内 武弘氏 (昭和42年卒)
笠 松光氏 (昭和42年卒)
金 崎一氏 (昭和42年卒)
小林 紘三氏 (昭和42年卒)
鈴木 勝機氏 (昭和42年卒)
溝 口健一氏 (昭和42年卒)
森 昭氏 (昭和42年卒)
山 玉三千城氏 (昭和42年卒)
山 中文字子氏 (昭和42年卒)
吉 田訓氏 (昭和42年卒)
米 谷秀文氏 (昭和42年卒)
佐 藤榎雄氏 (昭和43年卒)
橋 本紀勝氏 (昭和43年卒)
山 崎健美氏 (昭和43年卒)
金 崎圭美氏 (昭和44年卒)
田 村順子氏 (昭和44年卒)
加 茂國興氏 (昭和45年卒)

夕陽会函館市支部 事務報告

平成17年度 夕陽会函館市支部総会 (市民会館大会議室)

- 4月16日(土) 夕陽会函館市支部総会
20日(水) 事務局引継ぎ
21日(木) 第4回本部役員会
28日(木) 大懇親会
29日(金) 山尾 正氏 (昭和23年卒)
5月1日(日) 木村 良氏 (昭和12年卒)
14日(土) 渡島支部大懇親会
25日(水) 第5回本部役員会
25日(水) 函館市支部幹事会
31日(火) 第6回本部役員会
6月18日(土) 全国支部長会議
28日(火) 木谷広範氏 (平成12年卒)
29日(水) 久保千春氏 (昭和58年卒)
7月14日(木) 北林秀男氏 (昭和29年卒)

函館市功労者表彰受賞に祝意を表す

- 8月15日(月) 第1回本部役員会
20日(土) 全国支部幹事長会議
27日(土) 鶴岡会渡島支部懇親会
9月5日(月) 支部会報68号発行
10月6日(水) 塩崎設男氏 (昭和43年卒)
17日(月) 金山正智氏 (昭和35年卒)
11月1日(火) 安東璋二氏 (昭和30年卒)
19日(土) 七澤智子氏 (平成15年卒)
12月5日(月) 第2回本部役員会
20日(火) 弓庭 卓氏 (平成14年卒)
平成18年 1月9日(日) 葛西敏靖氏 (平成16年院卒)
11月1日(火) 安東璋二氏 (昭和30年卒)
29日(土) 高嶋 勉氏 (昭和12年卒)
12月5日(月) 第2回本部役員会
19日(土) 七澤智子氏 (平成15年卒)
20日(火) 弓庭 卓氏 (平成14年卒)
平成18年 1月9日(日) 葛西敏靖氏 (平成16年院卒)

【平成十八年度 予 告】

函館市支部総会

日 時 四月十五日(土) 午前十時
場 市民会館 大会議室

- ① 学校幹事は必ず出席してください。
② 学校幹事の他に以下の会員数の出席を加えて報告してください。
◇ 会員数九名以下の学校は、幹事の他に、一名以上
◇ 会員数十名以上の学校は、幹事の他に、二名以上

夕陽会本部総会・大懇親会

期 日 六月十七日(土)
場 国際ホテル
本部総会 午後四時
大懇親会 午後五時三十分

事務局だより

支部会報第六十九号をお届けいたします。本会報の発行に際し、ご多忙な時期にもかかわらず、快く原稿をお寄せいただき誠にありがとうございました。深く感謝申し上げます。前納会員制度のご案内を、三月でご退職される会員の皆様へ差し上げております。便利なこの制度のご利用をお勧めいたします。
(夕陽会函館市支部幹事長 津田 英昭)

題字/あさひ小学校 大塚信夫氏 (昭和50年卒)